

給食中「会話は可能」 文科相通知 コロナ指針変更で

文部科学省は29日、学校給食の際、適切な対策を取れば「会話は可能」とする通知を都道府県教育委員会などに出した。政府の新型コロナウイルス対策の基本的対処方針から「黙食」の文言が削除されたことに伴い、給食中の黙食は求めていることを初めて明文化した。

学校向けの衛生管理マニュアルは、給食が感染リスクの高い活動と指摘。飛沫を飛ばさないように①机を向かい合わせにしない②大声での会話を控える——といった対応が必要とするだけで、黙食は明示されていない。永岡桂子文科相も記者会見で「必ずしも黙食することを求めている」と述べていた。

基本的対処方針から「飲食は黙食を基本」との記述が25日に削除されたことを受け、文科省は通知に「従前から必ず『黙食』することを求めている」と明記し、座席配置の工夫や適切な換気といった措置を講じた上で会話は可能と強調した。衛生管理マニュアルは改定しない。

一部の自治体で黙食を緩和する動きがあるものの、多くの学校現場では継続している。文科省は「感染状況や地域の実情に応じて検討してほしい」としている。

またマスクについても、児童生徒のコミュニケーションに影響するとの指摘があるとして、マスクを外す場面を設定したり、不要な場面では積極的に外すよう促したりして、めりはりある着用を求めた。(秋田魁新聞 令和4年11月30日(水)より一部抜粋)